

備前市施策評価シート

(平成22年度事業)

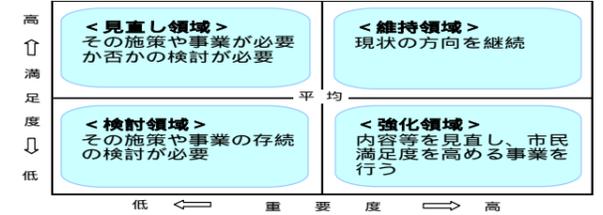
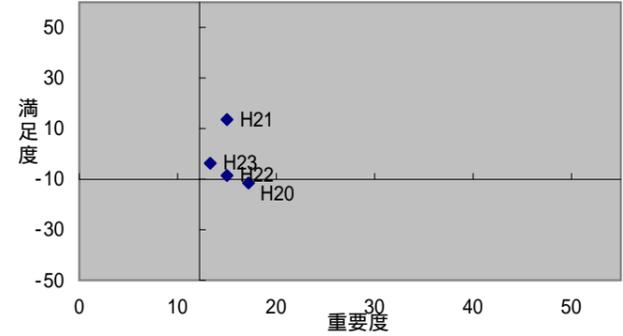
施策名 (小項目)	青少年教育	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-02-02	氏名	末長章彦	
			電話	64-1841	
		このシート作成に要した時間		1.5 時間	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	20歳未満の青少年の健全な育成を期す	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	子供たちを取り巻く環境として、インターネットや携帯電話の普及、規制の概念が通用しなくなる価値観の多様化など、大きな変化がおきている。非常に多感で人間形成上最も配慮を要す子供たちを、学校、家庭、地域社会が一体となって考え、地域で子どもを育てる気運を醸成しなければならない。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年健全育成活動の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年健全育成推進本部活動の推進</li> <li>青少年育成センターの運営</li> </ul> </li> <li>青少年の主体的活動の促進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年協議会やFOS少年団などの団体育成支援</li> </ul> </li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H20	H21	H22	H23
重要度(%)	17.2	15.0	15.0	13.3
満足度(%)	- 11.5	13.6	- 8.6	- 3.7



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査では、各地域ともに重要度が高く、地域の教育力への期待が高まっている。特に青少年健全育成事業では、各地区育成会の取り組みに大きな期待が寄せられている。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	900
成果指標 青少年健全育成講演会・健全育成大会参加者数	目標	人	1000	1000	1000	H23	900
	実績	人	889	868	866	H28	900
	達成率	%	88.9	86.8	86.6	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標 青年・FOS会員数	目標	人	170	170	170	H23	160
	実績	人	172	160	149	H28	150.0
	達成率	%	101.2	94.1	87.6	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高-低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)												施策への貢献度	
				平成20年度				平成21年度				平成22年度					平成23年度
				直接事業費	人件費	人工数	当	直	人	工	直	人	工	直	人		工
1	青少年健全育成事業	B	青少年健全育成推進本部補助事業	単市	1,500	1,467	0.18	1,500	1,320	0.17	1,500	1,410	0.16	1,500			
			青少年育成センター運営事業	単市	9,614	2,574	0.33	9,334	1,671	0.20	9,774	1,936	0.21	9,643			
2	青少年活動支援事業	C	備前市青年協議会補助事業	単市	262	76	0.01	262	76	0.01	210	94	0.01	168			
			備前市FOS少年団補助事業	単市	305	2,438	0.37	305	2,382	0.31	305	2,593	0.33	275			
					平成20年度				平成21年度				平成22年度				平成23年度
					11,681	6,555	0.89	11,401	5,449	0.69	11,789	6,033	0.71	11,586			

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	健全育成は非行や問題行動を起こさないための取組みから、生活リズムの改善など子どもたちの育ちを見守る活動へシフトしてきた。青少年教育の課題は刻々と変化しており、各種取組みの内容も変化させている。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3	青少年健全育成事業では思春期懇談会やお父さんお母さんの子育て懇談会で保護者が子どもたちへの向き合い方など考える機会を、育成講演会や育成大会では多くの大人が、今の子どもの問題や考え方をを知るための機会を提供している。電話相談も開設し子どもたちや親からの相談に対応している。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	地域での育成活動は盛んであり、あいさつ運動や見守り活動の成果で一般的には子どもたちは落ち着いている。しかしながら、初発型の犯罪(万引き・自転車盗など)は全国的に増える傾向があり、子どもたちの動向を見守っていく必要がある。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		前年度を継承して、非行防止活動から生活習慣の見直しへシフトした取組みを行う。	
翌年度(H24年度)の取組目標		一般的な子ども様子では荒れた行動は少ないが、規範意識が高いとは限らない。保護者も含めて規範意識を高める取組みが必要と考える。	
二次評価者コメント		近年、子どもたちは全般的には落ち着いているように見える。地域をあげて育成への取組みが進んでいることの現われとみる。しかしながら、地域での活動を支えてくださっている方々の高齢化がみられる。地域の活動はちゃんと次の世代に受け継がれているか。現役世代の活動参加を期したい。	
役職 教育次長 氏名 竹中史朗			
		基本施策への貢献度 3 中立	